



第31回

ARIHHP Human High Performance セミナー

社会的ひきこもり打開のための 心理社会生物学的理解に基づく多軸アプローチ

12月21日 木

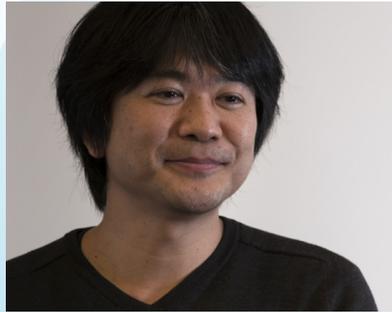
17:00 ~ 19:00

会場：筑波大学 GSI棟206

世話人：征矢 英昭 (2620)

※学外の方は事前の申し込みが必要です：

メール humanhighperformance@gmail.com



博士

6ヶ月以上にわたり自宅からほとんど外出せずに引きこもっている状況あるいはその状態にある者を日本では「社会的ひきこもり」と称しており（齊藤1998）、現在国内では15歳から39歳に限っても54万人の存在が明らかになり、その教育、雇用、経済に及ぼす影響は甚大である。社会的ひきこもりと類似した現象が海外でも報告されており、演者らは国際共同研究により社会的ひきこもりの評価法を開発し、米国、インド、中国など様々な国に社会的ひきこもりが存在することを明らかにした。従来、日本の文化社会に根ざした文化結合症候群とみなされていた社会的ひきこもりが国際化している要因として、演者はインターネット社会、グローバル化、そして遊び方の変容、つまり若者が運動しなくなったことが大きいのではないかと考えている。今回の発表では、演者らが展開している社会的ひきこもり打開のための心理社会生物学的理解に基づく多軸的アプローチを紹介する。興味のある学生・院生・教員のご参加をお待ちしております。

※本セミナーは、新学術領域研究「意志動力学（ウィルダイナミクス）の創成と推進」との共同開催です。



University of Tsukuba

主催

・文科省特別経費プロジェクト
ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現する次世代健康スポーツ科学の国際研究教育拠点 - 最先端生命・認知脳科学の導入 -
・文科省科研費 新学術領域研究
意志動力学(ウィルダイナミクス)の創成と推進

代表
連絡先
E-mail
電話

征矢英昭 (体育系)
小島敦子 (ARIHHP センタープロジェクト室 GSI棟202)
kojima.atsuko.ga@un.tsukuba.ac.jp
029-853-6325